

## 河原口坊中遺跡

(海老名市No.52 遺跡)

調査期間	20060601～ 20100215
所在地	海老名市河原口 152 他
時代	弥生 古墳 奈良・平安 中世 近世



作成日 : 20100405

## 概要

遺跡は中日本高速道路株式会社による首都圏中央連絡自動車道(さがみ縦貫道路)建設事業に伴って実施された発掘調査です。調査は平成 18 年6月から開始し、平成 22 年2月 15 日をもって終了しました。

遺跡は海老名市の西部、JR相模線・小田急小田原線厚木駅の北西約1kmに位置し、市域の西縁を南流する相模川中流域左岸に展開する標高 21～22mの沖積微高地に立地しています。遺跡の所在する河原口地区は小鮎川・中津川が相模川に合流する三川合流地点の対岸です。遺跡の北東 60mには平安時代末から室町時代に活躍し、海老名市の名前の由来にもなったと言われる「海老名」氏の菩提寺「宝樹寺」跡と推定されている墳墓が隣接している。調査は、道路橋脚部分(ピア)と排水溝のみが対象になっており、上下線あわせて 19 個のピア(P)があります。弥生時代中期後半から近代まで重なり合った状態で発見されました。弥生時代から平安時代までの竪穴建物址は 300 軒を超え、小石室は 12 基を数えます。

P19 下り線では、明治 20 年代に作成された銅版画が残るレンガ造りの酒造施設が検出されました。酒造施設は江戸時代後期から続く山田酒造という造り酒屋で、明治時代に海老名村村長になった山田嘉穀氏が建設したことが判明しています。大正時代になって社名が大島酒造となり、その後昭和 10 年に廃業しています。



▲P19 下り 酒造施設



▲P20 下り YH1号木槽

大正 12 年には関東大震災に見舞われ、建物も大きな被害を受けたようです。調査では補修の跡も確認されました。また、P24 上下線では、明治時代に醤油醸造業を営んでいた古川商店の建物基礎が2棟検出されました。古川家もまた江戸時代から続き、古川謙氏が海老名村村長をしています。古川商店は明治 37 年に廃業しています。

P28 地区では、弥生時代中期後半、宮ノ台式を伴う旧河道(埋没した川)が発見されました。西にある相模川とは反対側に下る斜面が形成されていたことが判明し、その斜面からはたくさんの完形品を含む弥生時代後期の土器が出土していました。更に深いところにある弥生時代中期の遺物が出土する層で旧河道が発見され、大量の木材とともに、鍬や鋤などの木製農具、高杯・斧台・火鑽板などが出土しました。これら木製品の他にも猪の歯や鹿の下顎骨、鹿角、昆虫の羽根やクルミなども多数出土しています。神奈川県内ではこの時期の遺物としては、2002 年に県重要文化財に指定された逗子市池子遺跡群以来の貴重な発見です。P20 下り線では調査区西側の約 2.8m 掘り下げたところから、木の板を組み合わせて囲い、底面に礫を敷き詰めた水場(取水)遺構が検出されました。大きさは長軸約 1.3m、幅約 0.9m、深さは 35cm 前後あります。周囲から出土した土器から弥生時代末から古墳時代初頭に作られた可能性があります。P24 上下線では P28 で発見されたのとは時期が違う古墳時代前期の旧河道や、弥生時代中期の流路が検出されました。旧河道からは流木とともに木製農具や機織り具などが発見されました。

河原口坊中遺跡は古墳時代から弥生時代の相模川を中心とした水辺の生活を考える重要な発見をしてきました。



▲P24 上り 木製品出土状況



▲ P25 弥生中期全景



▲P28 旧河道出土木器



P28 旧河道出土土器